

多様性を受け入れ、支え合うまち



豊岡市長 中貝 宗治

年 あいさつ

あけましておめでとうございます。
市民の皆さまにとって、笑顔あふれる年に
なりますように。

豊岡は、「小さな世界都市・Local & Global City」を目指しています。豊岡というローカルに深く根ざしながら、世界で輝き、そのことを通じて、「小さくてもいいのだ」という堂々たる態度のまちを創ろうということです。

実現可能性は、はっきりと見えてきました。伝統的なまち並みや文化に惹かれて、外国人宿泊客は豊岡全体で5万人を超えました。コウノトリ野生復帰の取組みは、昨年、イギリスで開かれた世界最大のバードフェアでも、驚きとともに受け入れられました。コウノトリ育むお米は、アメリカ、香港、ドバイ、シンガポール、オーストラリアへ輸出されています。城崎国際アートセンターには、一流のアーティストが世界中から続々とやってくるようになりました。観光とパフォーミングアーツ(演劇・ダンス)の両方を学ぶことができる県立専門職大学も、2021年4月の開学を目指して準備が進められています。10年前、誰がこんな事態を想像したでしょうか？

もちろん、課題はまだあります。地方創生で市が最も重視している「若者回復率」という数字があります。10代の若者の圧倒的な社会減を20代でどれだけ取り戻したかを示す数字です。2010・2015年の間の数

字は、男性約52%、女性約27%、合計約40%です。その前の5年間に比べ、男性は17ポイント上がったのに対し、女性は6ポイント下がっています。若い女性に選ばれていない、それが今の豊岡です。せっかく若い男性が帰ってきてても、パートナーになる女性がいらない。少子化はさらに進みます。危機的状況です。

なぜこんなことになってしまったのでしょうか？ それは、豊岡があまりに男社会だったから、と市では考えています。市役所でも、会社でも、地域社会でも、女性たちは補助的な仕事に甘んじてきました。半面、家事・育児は女性たちに押し付けてきました。そんなところに帰ってきたと思う人はそう多くいません。

企業も、今や圧倒的人手不足で、男だから女だからといっていられるような悠長な状況ではなくなっています。女性が女性であるというだけで能力を発揮できないとすると、それは組織的にも、社会的にも大きな損失です。

市の基本構想は、「小さな世界都市」の条件の一つとして「多様性を受け入れ、支え合うまち」を挙げています。「多様性」の中には男女の別も入っています。このジェンダーギャップ(男女の格差)をどう解消するか？ 豊岡の存続にかかわる、最大の挑戦です。市民の皆さまと力を合わせて、全力で取り組んでまいります。それは、「豊岡で暮らすことの価値」をさらに磨く努力に他なりません。

新 年頭のご



豊岡市議会議長 関貫久仁郎

あけましておめでとうございます。
市民の皆さまにおかれましてはご家族おそろいで、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年的一年を思い返してみますと、年初、成人式の晴れ着が届かない、26年ぶりの株価高値。GDP約2年ぶりにマイナス成長。平昌五輪スケート競技で日本の大活躍。二刀流、米メジャー鮮烈デビュー。史上最年少天才棋士の大躍進。他方で、自然の猛威に驚愕した想定外の豪雨・大地震。災害級の猛暑・酷暑、列島に次々と襲来した台風の数々。と、話題が駆け巡りました。豊岡市には大きな自然災害・事故・事件はなく、さまざまな出来事に一喜一憂しながらも一年を過ごすことができました。こうして新しい年を迎えることができましたことを感謝する気持ちを大切にしたいと思っております。

国内では、東京オリンピック・パラリンピックに向けて着実に活況に満ちると同時に、人口減少・労働力不足・地方の疲弊等を大きな課題として、国も注力しているところです。

日本全国で地方創生、地方の元気を取り戻そうと、各地の自治体はそれぞれで施策を進めています。

その中で、本市は先駆的にコウノトリ野生復帰、環境経済の推進、東京アンテナショップ、城崎国際アートセンターの開設等、観光・芸術・

演劇のまちづくりを。近年は、東京からの劇団「青年団」の拠点誘致、観光・芸術分野の「専門職大学」設立への挑戦。と、「小さな世界都市」を目指して、果敢に取組みを進めているところ。ですが、これらが、「持続するまち・安心して生活できるまち」につながっていくことを強く望み、議会としても真剣に取り組みたいと思います。

「市当局と議会とが車の両輪となり…」と表される場面を見聞きしますが、一緒に動いていては、議会の意味がありません。市民の今と将来を乗せた大きな車を安全・安心に、心地よく走らせていくのは行政の役割です。危険を感じる猛スピード、ふらふらとしたハンドル操作を感じた際には、燃料制限、時には強制ブレーキ、適切なナビゲートを行うことが議会の役割と感じます。市民の皆さまも、このような議会の動きに注視していただき、議会に対しての叱咤激励、これまで以上のご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。

2025年、大阪万博の開催が決定しました。ワクワク、ドキドキの始まりです。

5月には、「平成」から新元号へバトンタッチをします。風通しがよく、穏やかで希望に満ちあふれる時代への扉が開かれますように…。

皆さまにとりまして、この新しい年がより佳き一年でありますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

挑戦!!

市政イノベーション&堅実・着実

〔写真：二段滝(稲葉川)〕